

サポセン mail No.163.2016.10.30発行

〈発行元〉 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
千葉県緑区菅田町 2-25-78 ｱｰﾙ菅田 TEL&FAX 043-308-4436
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konjiki.jp/

8月あそび塾

『今年こそ！どろ団子づくり』

天気がどうなるか？とても心配でしたが、当日は曇りで、8月にしては過ごしやすい天気になりました。場所が越智の住宅の中にある西公園とわかりづらかったのですが、時間通りに集まりました。変わりやすい天気でしたので、どろ団子作りから始めました。



どろ団子を作った事がある子もない子も、講師の樋口さんの話を聞きながらまずは、どろ団子に適している土を探して丸めました。みさきちゃんは、控えめに土を掌にのせ、小さい丸を作り始めました。爪に土が入ることを気にしていましたが、作っていくうちに丸く固くなるにはどうしたらいいか、水や砂をかけ工夫して丸になった時は、嬉しそうに見せに来てくれ、しっかり土をにぎりしめていました。

丸めた土を頑丈に固める為に、水や砂をかけるのですが、この水の量が意外に難しい。かけ過ぎてもビチャビチャになりまとまらない、少ないと固まらない。子供たちも丸めるのに何度も水でぬらしたり、土をたしたり砂をかけたりしました。ほとんどの子が上から砂をかけていましたが、みちかちゃんは下に出して砂の上に団子を転がしていました。砂のかけ方一つとっても仕方も違って一人ひとりの個性が出ていました。

作った事があるりゅうせい君は、黒い土が固くなることと、どこにあるかを案内してくれ、越智の中の公園を回ってどの公園の土が向いているのかも教えてくれました。自分で体験した自信と頼もしさを感じました。

他の人の作り方を見て、自分で考え、試行錯誤しながら丸くなった時の達成感や出来た時の顔がとても嬉しそうでした。簡単に見えますが、固い丸になるまでの工夫や根気がいります。そこも話しながら楽しんでいました。

おやつは持ち帰り、広い公園なので、家の方が迎えに来るまでの時間、アスレチック遊具で遊んだり、追いかっこをしたりして、それぞれ楽しみました。いろんな公園があるので、もっと公園を利用して楽しんでほしいと思いました。(記大塚)





野菜は種から出来るの知ってる？

9/11 (日) 13:00~

ゆうちゃんファームでは、種から野菜を作り、収穫した野菜をお客様へお届けする仕事をされています。地元で農家一代目として活躍されている太田さんに、野菜のことについて教えてもらうことにしました。

あいにくのお天気の為、畑を見学することが出来ませんでした。事前に用意して下さったプロテクターで、飼育しているにわとり（100羽）や畑の様子を紹介して下さいました。



男の子は、パソコンから映し出される画像に興味津々で、最初から太田さんに質問攻めです。雨で畑に行けなかったのは残念でしたが、とても畑の様子がわかり、子ども達は満足している様子でした。

その後、子ども達 1人1人に、「夏野菜といえば何があるかな？」と聞いてみると、(トマト・ナス・ピーマン・オクラ・すいか・・・) 9名全員が答えることが出来ました。野菜博士も誕生するくらいみんなとても野菜に詳しくかったです。

次に、種あてゲームをしました。



テーブルの上に種を置き、画用紙に書いてある3種類の野菜の名前から、1つ答えを選ぶゲームです。「この種なーんだ？」子ども達はいっせいに「1ばーん！2ばーん！」と大きな声で答えます。

たくさんの種を用意してくれた中での難問は、トマトとなすとピーマンの種でした。種を取らずに一緒に食べているトマトやナスは、大人でも区別がつかないくらいです。実際お話を聞いてみると、野菜と種はよく似ているそうです。テーブルにあった種は少し種にふわふわと毛のようなものが生えていて、実際トマトも顕微鏡でみると産毛のような毛が生えているそうで、答えはトマトでした。

次に、種取りの体験です。オクラの種取りをさせていただきました。見たことも無い大きな紫の

オクラに、子ども達はびっくり！！コンテナBOXいっぱいのオクラを、みんな夢中になってとったので、あっという間に終了。子どもの集中力はすごいものがありました。オクラは、何かの

衝撃が加わると、自分ではじけて種を飛ばすそうです。



にんじんの花



オクラの種取り

太田さん、雨の中にもかかわらず、たくさんのオクラを用意して下さいました。





次に、はぐらうりの種取りを見せて頂きました。



はぐらうりの名前は「歯がぐらぐらでも食べられる」ので、はぐらうりと名前が付いたそうです。

はぐらうりの種を取る方法は、種を取り水につけて、沈んだ種を来年用に残すそうです。(種は重たい方が、良い種とのこと) そういえば、私達がお米をといている時も、浮いたお米は流してしまいますよね。

また、はぐらうりの様に種を取る野菜もあれば、青いトマト(グリーンゼブラ)のように、日なたに干してぶつぶつ醗酵させて種を取る野菜もあるそうです。

次は、みんな大好きおやつタイムです！



オクラ
おいしいよ



畑で収穫した新鮮なオクラを茹でたものと、ジャガイモを油であげていただいた、フライドポテトをごちそうになりました。

茹でたてのオクラには、最初子ども達は抵抗がありましたが、とっても甘くておいしかったので、あっという間に完食していました。食べず嫌いだったかもしれませんね。



無農薬で作った新鮮な野菜には、お菓子勝る良さがありますね。

最後に、質問コーナーを設けてくれました。

質問が止まりません！！子ども達は、野菜の世界は面白い！わくわく世界があることを教わったようです。

自分で見て、触って考える。子ども達の好奇心・探究心を大きく育てるには、地域で太田さんのような大人との関わりが、子どもの成長には大切なのではないかと思いました。(田中)



フリースクール「ネモ」を知っていますか？

フリースクール『ネモ』をご存知ですか？

毎週月・木・金・土曜日（10時～17時）開催しているフリースクールです。

決まったプログラムやカリキュラムはありません。フリースクールでやることは、週1回のミーティングで子どもたち自身が決めます。スタッフには不登校経験者もいるので、気持ちを分かり合えることもあるようです。元気になるには、楽しいことや美味しいということが、辛いことの何倍も必要なので、何がやれるかよりも、まずはそこにいることを大切にしていって、子どもたちはゆっくりと過ごすことができます。9月14日、フリースクール『ネモ』に通う13歳（中1）の少年の話を聞く機会がありました。

3分の1子どもはどうして学校に行けないのか、自分でもわからない。

彼は小2ぐらいから学校に行けないことが時々あったそうですが、小5の時友達の家遊びに行った際に、友達に遊ぶことを断られました。「あの子は不登校だから、遊ぶな！ってお父さんが言うんだ。」そう言われたそうです。それから完全に不登校になったそうです。当時、自分は どうして学校に行けないのか、彼はわからなかったと言います。不登校の原因は3分の1は「いじめ」そして3分の1は「教師や学校」が原因。でも残りの3分の1の子は自分でもどうして学校に行けないのかよくわからないそうです。彼の兄や姉は勉強が良くでき、姉はカナダ留学もしていたので、当然のように両親は「どうしてあなただけ学校に行けないの？」と責められたそうです。今の自分なら、当時の自分がどうして登校できなかったのか少しわかってきたのですが、当時は両親から「どうしてあなただけ学校に行けないの？」と聞かれることは本当につらかったそうです。



そんなときの学校や先生の対応はどうだったの？

当時は学校の先生が何度も家に来てくれました。いろいろ聞かれたり、学校に行こうと話しかけてくれました。当時彼は体もちいさくて、先生がお姫様抱っこをして教室に無理やり連れて行かれたこともありました。もう恥ずかしさを通り越して「もう2度と学校へは行かない！」と思ったそうです。そして何よりも先生の「自分のクラスから不登校の子どもを出したくない。」という気持ちを感じたそうです。また学校へ行くと必ずみんなから、「なんで学校休んだの？」って聞かれます。『ネモ』にいと、それがないだけでも本当に嬉しいそうです。

「明日は学校にいこうね。」は誰のため？

親は多くの場合、「明日は学校へ行こうね。」と言います。その声かけは誰の為でしょうか？『ネモ』のスタッフでもあり、自らも不登校の経験がある前北海さんは次のように話してくれました。「早く元気になって！」「笑顔になって！」というのは『元気じゃない君を見たくない！』という親の気持ちです。でも辛い時、元気であることを強られるのは本当に厳しいことなのです。



（次号につづきます。 記 安藤弘美）